

完了報告書（平成 24 年度）

提出者 ライカイ・ジョンボル

提出年月日 平成 25 年 1 月 16 日

**【プロジェクト名】**

和文

「社会主義・ポスト社会主義期の諸国における家族・社会変動  
—— 東ヨーロッパと東アジアにおける変化と継続」

英文

“Family and Social Change in Socialist and Post-Socialist Societies:  
Change and Continuity in East Europe and East-Asia”

**【メンバー構成】**

研究代表者 サンドロヴィッチ・ティムール

幹事 ライカイ・ジョンボル

メンバー 菅原 祥、デブナール・ミロシュ、郝 洪芳

**【ねらいと目的】** (600 字程度)

2012 年度の「次世代研究出版プロジェクト」において、1.「非西欧文化圏における家族・親密圏の理論的  
概念の構築——東アジアと東欧における知識社会学的フィールドワーク研究」の次世代研究プロジェクト  
(2009 年度) ; 2.「トランジショナルな社会における親密圏と公共圏の同時的变化：家族とコミュニティ  
——中国、ハンガリー、ポーランド、スロバキア、ウクライナを事例として」の次世代研究ユニットプロ  
ジェクト (2010 年度) ; 3.「トランジショナルな社会における親密圏と公共圏の同時的变化：家族、コミュ  
ニティ、国家、市場——中国、ベトナム、ハンガリー、ポーランド、スロバキア、ウクライナを事例とし  
て」の次世代研究ユニットプロジェクト (2011 年度) という 3 つのプロジェクトで得られた研究成果をま  
とめ、*Family and Social Change in Socialist and Post-Socialist Societies: Change and Continuity in East Europe  
and East Asia* と題目とする共著本の出版を計画する。

本書において、海外の家族研究者の協力の下で、東アジア（中国・ベトナム）と東ヨーロッパ（ロシア・  
ウクライナ・ポーランド・スロバキア・ハンガリー・ルーマニア）の社会を対象とし、社会主義近代化と  
その体制転換期における親密圏と公共圏の同時的变化を明確にすることを目的としている。具体的には、  
家族主義と個人化をキーワードに、各社会において家族変動に関する実態的变化と価値観との葛藤 (1)、  
ジェンダー関係の変容 (2)、家族主義 (family dependency) のありよう (3) から詳細な分析をおこなう。  
その結果から、国家権力の縮小とともに市場化（市場経済への転換）及び市民社会の形成過程と、家族関  
係・友人関係をはじめとする親密圏との関係性を明らかにし、(元) 社会主義諸社会の近代化・脱近代化  
をより正確に把握すると考える「修正した第 2 の人口転換論」の可能性を検討する。

**【活動の記録】**

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等  
調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等  
その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

5月 第1回出版打ち合わせ；各章に関する第1回ドラフトの収集。

6月 第2回出版打ち合わせ；各章に関する第1回ドラフトのチェック・コメント。

7月 第3回出版打ち合わせ会；各章に関する第2回ドラフトの収集。

8月 第4回出版打ち合わせ；各章に関する第2回ドラフトのチェック・コメント。

9月 第5回出版打ち合わせ；各章に関する第3回ドラフトの収集。

10月 第6回出版打ち合わせ；各章に関する第3回ドラフトのチェック・コメント。

11月 第7回出版打ち合わせ；英語のネイティブスピーカーによる校閲。

12月 第8回出版打ち合わせ；校閲されたドラフトのチェック・コメント。

1月 第9回出版打ち合わせ；最終ドラフトのチェック・校正・訂正。

2月 第10回出版打ち合わせ；出版段階に入る。

### 【成果の概要】（800字程度）

*Family and Social Change in Socialist and Post-Socialist Societies: Change and Continuity in East Europe and East Asia* と題目とした本共著本は元々序論+10章を含む予定であったが、その中で特別な章として執筆する予定であった第9章（「ポーランドにおける『社会主義工業町』からみた親密圏・公共圏の日常性」）と、第10章（「ハンガリーにおける『社会主義工業町』からみた親密圏・公共圏の日常性」）を、共著本全体の目標（つまり、「修正した第2の人口転換論」の可能性の検討）の調整により、割愛することになった。その結果、完成された共著本は序論+8章から構成されるものである（以下の章構成を参照）。各章について数回ほどコメントのやりとりをおこなってから、英語のネイティブスピーカーによる校正がおこなわれた。各章は関連する社会の社会変動・家族変動とともに親密圏と公共圏の変容について貴重な情報を与えており、「修正した第2の人口転換論」の可能性についての議論にも有意に貢献するものである。現時点では、序論も含めて各章は Brill 出版社に入稿されており、出版に関する具体的な問い合わせをおこなっているところである。

### 章構成

序論	<i>Introduction</i> [執筆者: Zs. Rajkai]
第1章	<i>Family and Social Change in Russia</i> [執筆者: Y. Gradszkova]
第2章	<i>Exploitation of the Intimate Sphere in Socialist and Post-Socialist Ukraine</i> [執筆者: L. Males & T. Sandrovysh]
第3章	<i>Changes in the Area of Family Life in Poland</i> [執筆者: M. Sikorska]
第4章	<i>Contemporary Family in Slovakia: Demography, Values, Gender and Policy</i> [執筆者: P. Gurán, J. Filadelfiová & M. Debnár]
第5章	<i>Family Systems and Family Values in 21<sup>st</sup>-Century Hungary</i> [執筆者: O. Tóth & Cs. Dupcsik]
第6章	<i>Romanian Families: Changes and Continuities Over Recent Decades</i> [執筆者: B. Kovács]
第7章	<i>The Transition of Chinese Families Over the Past Thirty Years (1978–2010)</i> [執筆者: Zhou Weihong, Liu Wenrong & Xue Yali]
第8章	<i>Changes of Socio-Demographic Characteristics of the Vietnamese Family</i> [執筆者: Nguyen Minh]

### 【通信欄】